

令和5年11月20日（月）

1 伏見みなと公園広場（京都市伏見区）

【調査事項】

「川のみなとオアシス水のまち 京都・伏見」登録を契機とした施設の再整備について

【調査目的】

令和4年9月に策定した「伏見の『みなと』を中心としたまちづくりビジョン」による地域ニーズに対応した施設整備の取組状況について調査する。

【調査内容】

令和3年4月、伏見港は国土交通省の「みなとオアシス」に登録され、「川のみなとオアシス 水のまち 京都・伏見」運営・まちづくり協議会は、①誰もが楽しめる安心安全な水辺空間づくり、②伏見の水と歴史を生かした賑わいと暮らしの創出、③まちの回遊性向上と伏見らしい魅力・体験の創出の3つを取組方針とする「伏見の『みなと』を中心としたまちづくりビジョン」を策定した。本ビジョンに基づき、伏見みなと公園広場や宇治川派流の整備事業が実施される。

伏見みなと公園広場整備事業は、誰もが安心・安全・快適に利用できる空間となるよう、凹凸のある広場をフラットに造成、日陰を演出するシェルターの設置、イベント時に使用できる照明・電源の整備等を実施するとともに、伏見みなと橋のバリアフリー化などにより、京阪・中書島駅から伏見みなと公園広場につながるスムーズな動線を確認することとしている。また、伏見港公園のテニスコート北側のクラブハウス建替えやトイレのバリアフリー化により、広場利用者が快適に利用できる環境づくりを進めることとしている。宇治川派流の園路は、凹凸のある石敷きを歩きやすい平坦な園路にするとともに、樹木の剪定により明るく見通しがよくなるよう整備する予定である。なお、これらの事業は今年度末から順次着工する。

また、国土交通省は、令和5年8月、「伏見地区かわまちづくり」に登録し、大阪・関西万博に向けた淀川舟運復活の動きとも連携し、親水護岸及び親水空間の整備やにぎわい拠点の機能整備を行うことで、京都・伏見の新たな玄関口やにぎわいエリアの形成を図ることとしており、そこから伏見の市街地へと回遊を促すことで、伏見のまち全体の活性化を図っていくとのことであった。

【主な質問事項】

- ・施設再整備に伴う駐車場の整備について
- ・大雨時の水位の状況について
- ・整備後の公園の利用方法について など



調査事項を聴取



施設視察

2 宗円交遊庵やんたん〔於：山城広域振興局宇治総合庁舎〕（綴喜郡宇治田原町）

【調査事項】

お茶の京都の取組について

【調査目的】

コロナ禍において中止されていた行催事等の再開や、新名神高速道路の開通、大阪・関西万博の開催などにより、多くの観光客がお茶の京都エリアを訪れることが期待されている中、お茶の京都における取組の現状及び今後の施策展開について調査する。

【調査内容】

お茶の京都は、京都南部5市6町1村で構成され、府内人口の約5分の1、54万5千人を擁するエリアである。観光入込客数は、平成30年12,537人、令和元年13,278人と順調に推移していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年は7,947人と前年の約6割まで落ち込んだ。令和4年の感染症分類5類移行後は、中止されていた行催事等も徐々に再開され、観光入込客数は10,274人と回復傾向を示している。

お茶の京都エリアは、鉄道等の1次交通の利便性が高いことや大阪・関西万博で大きな魅力となるけいはんな学研都市が存在するなどの強みがある一方、駅から観光施設までの2次交通が脆弱であることや宿泊施設が少ないなどの課題を抱えている。令和5年3月のJR奈良線第二期複線化事業の開業や、今後、新名神高速道路の整備により、大阪からの利便性が向上することから、人材育成や滞在・体験型観光の推進、移住・定住の促進等により、観光消費額の増大を図りたいとのことであった。

宗円交遊庵やんたん（以下「やんたん」という。）は、日本緑茶発祥の地、宇治田原町の観光交流拠点として、湯屋谷地区の共同製茶場をリノベーションし平成30年にオープンした。日本緑茶の礎となる「青製煎茶製法」を開発した永谷宗円ゆかりの地であり、地域活性化に取り組む地域住民の団体「1738やんたん里づくり会」が指定管理者として運営している。やんたんでは、地元の郷土料理を含む食事の提供、観光案内やお茶をはじめとする特産品の販売、イベント等への会場貸出し等を行っており、地域住民が地域の活性化について話し合い、管理運営を担うことにより、交流によるまちの活性化を目指していきたいとのことであった。

【主な質問事項】

- ・お茶の京都DMOの人員体制について
- ・レンタルサイクル事業の取組状況について
- ・移住に係る施策の取組状況について
- ・映画・テレビのロケ誘致の取組状況について など



調査事項を聴取



宗円交遊庵やんたん視察

3 国道24号城陽井手木津川バイパス及び主要地方道宇治木屋線（犬打峠） 〔於：山城広域振興局田辺総合庁舎〕（綴喜郡井手町・宇治田原町）

【調査事項】

国道24号城陽井手木津川バイパス及び主要地方道宇治木屋線（犬打峠）について

【調査目的】

国道24号における交通混雑の緩和、交通安全の確保及び災害時の道路ネットワーク強化を図り地域振興の支援を目的とする国道24号城陽井手木津川バイパス事業（国直轄事業）及び高速道路へのアクセス機能向上により地域産業の振興や交流人口拡大に寄与する主要地方道宇治木屋線（犬打峠）の整備事業に係る現在の整備状況について調査する。

【調査内容】

（1）国道24号城陽井手木津川バイパス事業

城陽井手木津川バイパスは、国道24号における交通混雑の緩和及び交通安全の確保、また災害時の道路ネットワーク強化を図り、地域振興の支援を目的とする延長11.2kmの事業である。

現道の国道24号は、交通容量の不足により交通混雑が発生しており、それに伴う追突事故も発生している。また、木津川沿いの浸水想定区域内に位置するため、河川氾濫時には通行不能となり、緊急輸送道路としての役割も果たせない。

本バイパスは、浸水想定区域を回避して整備されることによる災害時の交通機能確保だけでなく、新たな地域開発の展開や新名神高速道路へのアクセス道路として機能することで、木津川右岸地域の発展を支えることが期待される。

これまで用地買収が進められてきたが、今年度から設計・施工等を本格的に進めていきたいとのことであった。

（2）主要地方道宇治木屋線（犬打峠）

主要地方道宇治木屋線（犬打峠）道路整備事業は、①走行性の向上・交通の安全確保、②高速道路へのアクセス向上、③異常気象時等における道路の信頼性向上、④地域産業の発展支援を目的に、平成29年度から実施されている事業である。事業延長3.6kmのうちトンネル部は約3kmである。令和5年8月25日にトンネル部が貫通し、10月9日に貫通式典が行われた。

トンネル掘削工事は、現在、コンクリートで固める覆工が約100m残るのみであり、今年度内の完成を目指し進められている。また、照明や給水などの設備工事及び道路築造、舗装等の抗外部工事は、令和6年度中の完成・供用開始を目指し進められている。なお、トンネルの正式名称は「鷲峰山（じゅうぶざん）トンネル」に決定しているとのことであった。

【主な質問事項】

- ・トンネル工事残土の処理について
- ・トンネルにおける避難用通路、歩行者・自転車用通路について
- ・総事業費及び事業費増額の見込みについて
- ・供用開始後の現道の管理について など



調査事項を聴取



現地調査